



時間：15:00-17:00  
 会場：京都大学稲盛財団記念館3階会議室

ハイブリッド開催

\* オンラインでの受講は事前申込が必要です。

268



ARRI

第 268 回  
 2026 年 6 月 25 日 (木)

交渉される「親子」のつながり  
 エチオピアにおける子の移動と養育

有井 晴香

北海道教育大学函館校国際地域学科 准教授



本報告では、エチオピア南部のマール社会を事例に、子の世帯間移動に着目して「親子」のつながりがいかに交渉され、構築されるのかについて考えたい。とくに、父系の親族集団を基盤とした家父長制社会において周縁化されてきたような子、すなわち未婚女性の子や特定の条件によって育てることが従来では禁忌とされてきた子、父親を亡くした遺児などの養育事例を検討する。

第 269 回

2026 年 10 月 15 日 (木)

台頭する「辺境地」

ウガンダ北部の国境社会ウェストナイルにおける  
 開発と国家介入

山崎 暢子

人間文化研究機構・人間文化研究創発センター 研究員

ウガンダでは政治経済、文化において南部の王国が存在感を示し、北部の国境社会は周縁化されてきた。南スーダンやコンゴと隣接する北西部のウェストナイル地方では、1970 年代末から断続的な紛争によって国内外に避難した大勢の人々が帰還した後も 20 年以上、復興が進まなかった。それが近年、国家主導の開発事業による急速な都市化を経て、首都圏からも人口が流入するようになってきている。大きく変容しつつある国境社会の今を報告する。



269

第 270 回

2026 年 11 月 19 日 (木)

南アフリカの黄桃缶詰の 20 世紀史  
 フードボイコットを乗り越えるまで

宗村 敦子

千葉経済大学経済学部 専任講師

270



MUSEMURA



日本で販売される黄桃は、アパルトヘイト体制下の南アフリカからかつては流入し、かつボイコットの対象となった。その流入の背景には、大手総合商社を巻き込んだ産業間交流の歴史がある。こうした関係は国際的な経済制裁下では強く非難された一方で、1980 年代の貿易関係史は論じられてこなかった。そもそも南ア産の黄桃とはどのような嗜好品で、日本の消費者に受け入れられてきたのか。本発表ではその商品来歴、および今日の日本の商社の評価を紹介する。